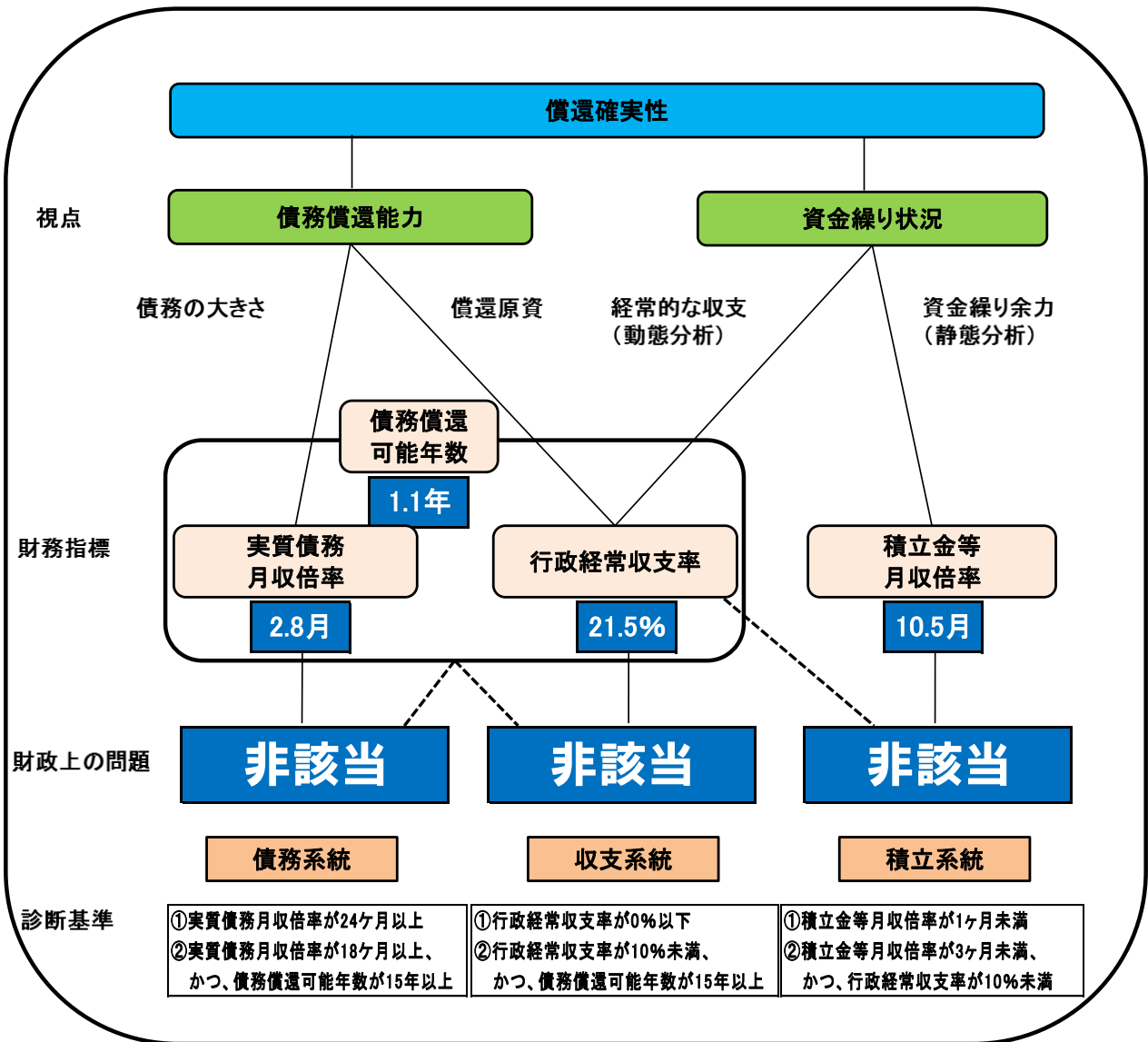


佐々町財務診断表のポイント①

《診断結果》

平成25年度の債務償還能力及び資金繰り状況に関して、財務上の問題は生じていない。
今後においても各指標の低下は見られるものの、問題の生じる状況には無い。



上記の数値は特別交付税ヒアリング提出資料に基づく収支見通しの最終年度である平成30年度の見込みのもの

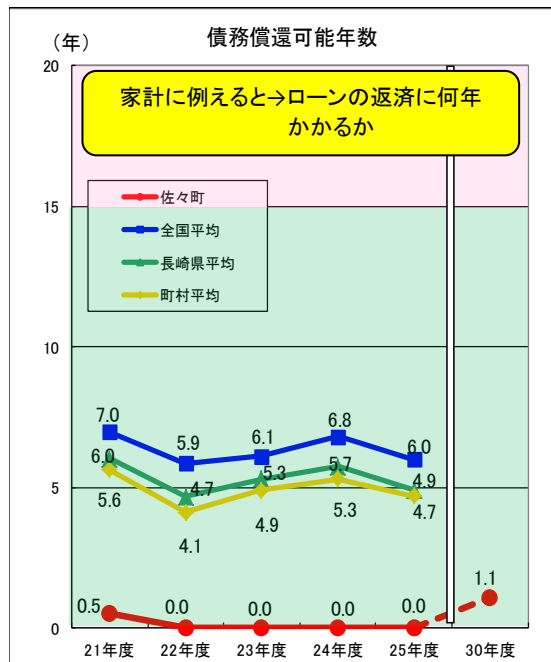
《留意点》

平成25年度(現状)及び平成30年度(将来見通し)において、債務償還能力・資金繰り状況ともに問題ない水準となっている。

しかし、社会福祉費の増加に伴う扶助費の増加等から、収支は悪化する見通しとなっているほか、公共施設の老朽化対策や下水道事業への繰出しのための特定目的基金の取り崩しが見込まれており、積立金等残高は減少する見通しとなっている。加えて、公営住宅や庁舎等、更新の時期を迎えている公共施設について、具体的な改修費等が収支計画に反映されていないことから、当該公共施設の改修事業等による積立金等残高の減少等のリスクを内包している。

このため、収入増加の取組等の推進及び財政の効率化を図るとともに、具体的・現実的な財政計画の策定及び当該計画の進捗について留意する必要がある。

佐々町財務診断表のポイント②



《意義》

一年間で生み出される償還原資の何倍債務を抱えているかを見るもの。

債務償還可能年数＝実質債務(※)／行政経常収支

《今後の見通し：長期化する見通し》

①実質債務→増加

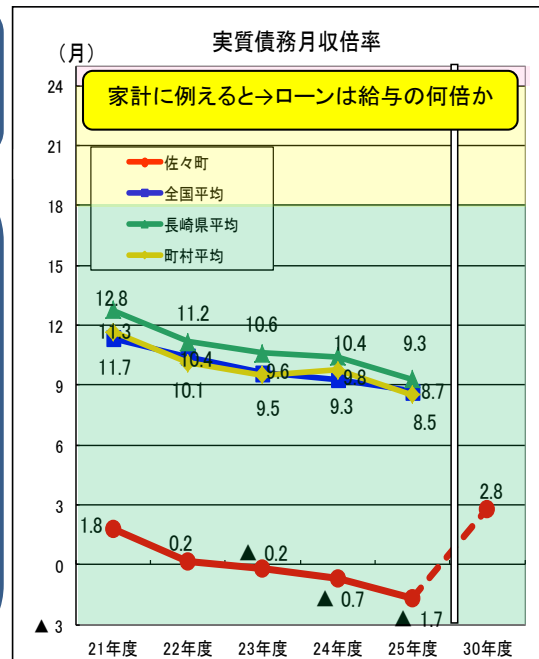
公共施設の老朽化対策や公共下水道事業特別会計への繰出し等のために、積立金の取崩しを行うことから、積立金等残高が減少する見込みであるため。

②行政経常収支→悪化

国(県)支出金等の減により、収入面は減少見込みであり、一方で、扶助費や繰出金の増により、支出面は増加見込みであるため。

①・②の影響により、債務償還可能年数は長期化する見通しである。

※実質債務＝地方債現在高+有利子負債相当額-積立金等



《意義》

一月当たりの収入の何か月分債務があるかを見るもの。

実質債務月収倍率＝実質債務／(行政経常収入/12)

《今後の見通し：上昇する見通し》

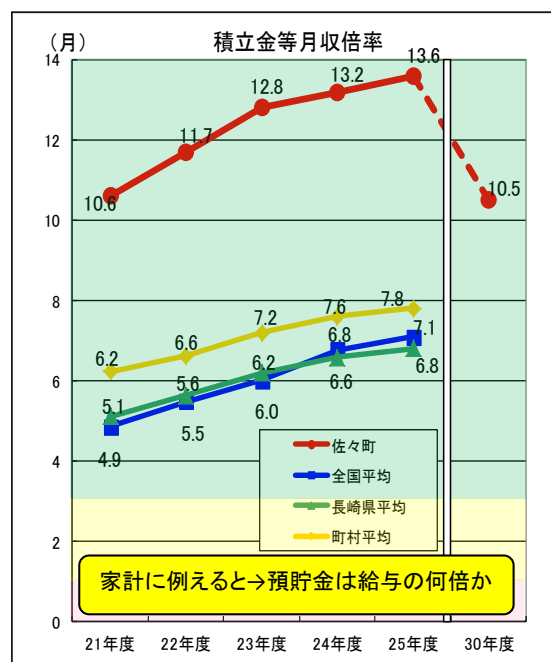
①実質債務→増加

公共施設の老朽化対策や公共下水道事業特別会計への繰出し等のために、積立金の取崩しを行うことから、積立金等残高が減少する見込みであるため。

②行政経常収入→減少

補助事業の縮小等により、国(県)支出金等が減少する見込みであるため。

①・②の影響により、実質債務月収倍率は上昇する見通しである。



《意義》

一月当たりの収入の何ヶ月分の積立金があるかを見るもの。

積立金等月収倍率＝積立金等／(行政経常収入/12)

《今後の見通し：低下する見通し》

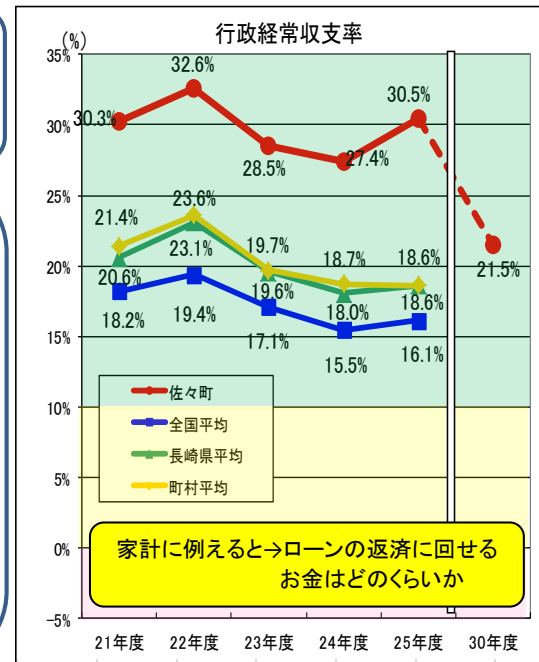
①積立金等残高→減少

公共施設の老朽化対策及び下水道事業特別会計への繰出し等のために、その他特定目的基金の取崩しを行う予定であるため。

②行政経常収入→減少

補助事業の縮小等により、国(県)支出金等が減少する見込みであるため。

①による影響が大きいため、積立金等月収倍率は低下する見通しである。



《意義》

収入からどの程度の償還原資を生み出しているかを見るもの。

行政経常収支率＝行政経常収支／行政経常収入

《今後の見通し：低下する見通し》

①行政経常収支→悪化

国(県)支出金等の減により、収入面は減少見込みであり、一方で、扶助費や繰出金の増により、支出面は増加見込みであるため。

②行政経常収入→減少

補助事業の縮小等により、国(県)支出金等が減少する見込みであるため。

①による影響が大きいため、行政経常収支率は低下する見通しである。